

令和4年度

インテリア関係の調査・研究 活動報告書

全国工業高等学校インテリア科教育研究会（全イ研）加盟校における
インテリア教育の実態調査

令和5年4月

千葉県県立市川工業高等学校 インテリア科

1 はじめに

(1) 調査・研究の背景・理由

約 30 数年前は、全国高等学校インテリア科教育研究会（全イ研）に加盟する学校が 55 校ありました。しかし、全イ研時代の流れと共に統廃合や学科改変などにより、現在は 22 校を数えるまでになっております。以前は全イ研事務局で加盟校の教育課程調査を実施した経緯がありますが、インテリア教育を担当する教員も様変わりし、現在はどのような教育を目指しているのかが気になります。そこで、全イ研加盟校の状況を把握するために、今年度は、インテリア教育の実態調査を実施することにしました。まず第 1 段階として、実際に加盟校を訪問し、観察、インタビューにより教育の現状を詳細に把握したいと考えております。2 段階として加盟校の専門科目のシラバスから授業内容を調査し、実態を把握したいと考えております。

(2) 調査・研究メンバー

千葉県立市川工業高等学校	インテリア科	金子 裕行	
千葉県立市川工業高等学校	インテリア科	伊藤 智大	(インテリア科 科長 全イ研理事長)

2 目的

- (1) 全国高等学校インテリア科教育研究会(全イ研)加盟校の専門科目の授業内容を調査し実態を把握する。
- (2) 調査結果を分析し、高校でのインテリア教育の実態を日本インテリア学会大会で発表する。
- (3) 全イ研加盟校へ調査及び分析結果を報告し、今後のインテリア教育の在り方を検討する資料として活用する。

3 調査・研究活動のスケジュール

2022 年 7 月～8 月	全イ研加盟校専門科目のシラバス内容を調査
9 月～12 月	調査の分析・まとめ・報告書作成
7 月	全イ研オンライン会議
8 月	全イ研加盟校の実地調査
	8 月 18 日 (木) 三重県立伊賀白鳳高等学校視察
	8 月 19 日 (金) 名古屋市立工芸高等学校視察

4 調査・研究活動の内容と実施結果

(1) 全イ研加盟校訪問調査

①三重県立伊賀白鳳高等学校実地調査

期日 令和4年 8月18日(木)

伊賀白鳳高校は、平成21年4月に開校した三重県で初めての総合専門高校である。伊賀地域の3つの専門高校(上野工業高校・上野農業高校・上野商業高校)が集結し、工業科・農業科・商業科・福祉科の4分野の8コースを設置している。工業科の中に全イ研に加盟している建築デザイン科があり、「建築・インテリアコース」、「デザインコース」がある。教員は建築、美術が専門で、学科改変により、建築専門の教員の割合が多い。全イ研加盟校共通科目であるインテリア計画の履修は無く、建築計画を履修している。工業技術基礎(建築・インテリアコース、デザインコース1年次共通科目)においてツールを製作している。製作は図面作成、機械加工、組立て、塗装を一から学習し、一人ひとりが家具製作の基本が身につくように指導。これは前身の上野工業高校時代から踏襲されている。建築・インテリアコースは、1年から3年までの作品をスーパー等で販売している。これは、建築・デザインコースの一番のイベントとなっている。製品に関するクレームはほとんど無いということであった。家具の販売イベントのPRはデザインコースが担当。PRは新聞の折り込み広告等で発信し、ポスターデザインもデザインコースが担当している。デザインコースは、校内に設定してある展示場所を利用して卒展を毎年実施している。全イ研主催の「高校生ものデザインコンテスト」の作品応募は、デザインコースが担当している。主に総合家具、住宅等の製造業に就職。他に建築関係の職種にも就職している。6割が進学。デザインコースは進学を斡旋している。

②名古屋市立工芸高等学校実地調査

期日 令和4年8月19日(金)

電子機械科、情報科、建築システム科、都市システム科、インテリア科、デザイン科の計6学科を設置している。

インテリア科の指導教諭は全員名古屋工芸高校卒である。ベテラン職員が定年等で次々と退職している。職員の平均年齢が低年齢化しており、現学科長は36歳。木材加工系の技術は格段に低下している。カリキュラムは1年次で共通科目を履修し、2年次は共通科目+インテリアデザイン系又は家具・クラフト系を履修する。3年次はI類アカデミックコース(理工系)又はII類プロフェッショナルコースのどちらかを選択し履修する。アカデミックコースは現在1名で大半がプロフェッショナルコースを選択している。3年次のコース選択は2年次の2学期から取る。2年次の夏休みに進学希望者はオープンキャンパスに行かせる。公務員希望者は公務員講座を受講するか自分で判断させている。

教育課程は、全イ研加盟校が履修する共通科目(インテリア計画、インテリア装備、インテリアエレメント生産、デザイン技術(デザイン実践))を履修しているが、2年次のインテリアデザイン系ではインテリア装備、家具・クラフト系では、インテリアエレメント生産を履修することになり、選択によって履修する科目が違っている。また、3年次のアカデミックコースは、2年次で選択した系列がそのまま踏襲されて履修する形を取っているため、2年次同様履修科目が違う。但しデザイン技術(デザイン実践)は共通科目として履修する。インテリア総合という科目を3年次共通科目として履修。内容は福祉住環境コーディネーター3級取得を目指すもので、7割から8割が合格している。

進路に関して、今年度の求人数は1260件、学年の50%が就職し、50%が進学。インテリア科の就職先は、木材関係、家具製造関係、建設業(CADオペレータ、左官等)など。進学先は東海工業専門学

校、大同大学（教員希望）など。資格取得に関しては、インテリアコーディネーター（合格実績有り、今年度は4名受験を希望）カラーコーディネータ、リビングスタイリスト2級、レタリング技能検定（1年次製図で指導）、インテリア設計士2級等。

（2）授業内容調査

全イ研加盟校である22校にシラバス提供のお願いを実施したところ、17校の協力をいただき授業内容の調査を行った。本調査は「製図」の授業に着目し、「学年」「単位数」「内容」に着目し集計作業を行った。

1学年は、12校の学校で、「製図」の授業を展開していた。内容は、製図の基礎、道具の使い方から始まり、三面図、住宅平面図、透視図等を学ぶ学校がほとんどであった。「製図の」授業を1年次に展開していない学校においては、その他授業で補う学校もあった。また、CADの授業を展開している学校も何校か見られた。

2学年は、14校の学校で「製図」の授業を展開していた。内容は、住宅設計図、平面図、立面図、家具製図、二消点透視図、CAD、コンペ作品製作等を展開している学校がほとんどであった。2年次に初めて「製図」の授業を展開する学校はそのうち3校。作成した図面を模型により展開している学校もあった。また、単位数についても4単位の学校が2校。3単位の学校が6校と単位数についても変化がみられた。

3学年は、8校の学校で「製図」の授業を展開していた。3学年で初めて製図に取り組む学校もあった。内容は、CADに取り組む学校が多く、家具詳細図やコンペ作品製作等を展開している学校がほとんどであった。なかにはインテリアコーディネートの授業を展開している学校があり、各自で家具などの資料を集めプレゼンボードを作成する授業、住宅平面図の設計においては、計画の知識（動線、人体寸法、空間の動作領域の観点）を取り入れ授業を展開している学校もあった。

5 考察

今回は2校の学校視察、17校のシラバスの授業内容調査を行った。授業内容調査では、特に「製図」の授業に着目して調査を行った。その理由として、インテリアとして「製図」という授業は、図面を描くという授業であるとともに、要素として「ターゲットの要望」や「動線」、「空間の動作領域」等のインテリア計画の知識も合わせた内容が必要だと感じている。今回の調査に至っても、各校のインテリア教育の取組みとして「何」を重視しているかに焦点をあて調査を行った。しかし、シラバスの授業内容調査だけでは、なかなか学校の取組みの「深い」部分が追求できず、今後さらに各学校へのアンケート調査と引き続きの学校視察が必要であると感じている。各校の専門性についてもインテリア、建築、デザイン、美術、機械、電気など多岐にわたる状況である。全イ研事務局として、「インテリア」について「何」を柱にどんなことを主軸とするべきなのかを研究し、インテリア教育の在り方を検討していきたい。

最後にご協力を頂いたインテリア産業協会と全イ研加盟校に感謝の意を示してしめくくりとしたい。